

科目名	神経系理学療法学実習【理学】					開講 キャンパス	神 崎
担当者	山 田 道 廣						
開講年次	3	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修（理学）
授業の概要 及びねらい	脳血管障害・頭部外傷に起因する中枢神経障害がもたらす運動機能障害に関する知識を基に、理学療法（障害のリスク管理・合併症・評価・運動療法・物理療法・ADL指導・生活環境支援）の理論と技術を習得し、臨床応用できる基礎を系統的に学習する。						
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳血管障害の患者における疾患固有の合併症に配慮して、運動療法を行うことができる</li> <li>2) 脳血管障害における理学療法上の身体的リスクを測って、安全な治療を行うことができる</li> <li>3) 中枢神経障害がもたらす運動障害の状況にあわせた、感覚・知覚・認識の評価をすることができる</li> <li>4) 患者の個性や生活環境の情報を集め、回復状況に合わせたゴール設定を行うことができる</li> <li>5) 中枢神経障害回復段階の理学療法について、人の基本動作練習をモデルに対して施行できる</li> <li>6) グループ別に決められた評価項目についての発表ができる</li> <li>7) 頭部外傷患者の評価と治療について理解できる</li> <li>8) パーキンソン病の評価と治療について理解できる</li> <li>9) 小脳障害患者の理学療法について理解できる</li> <li>10) 中枢神経障害患者の評価結果から問題点抽出・目標設定・治療プログラム立案が行える</li> </ol>						
学習方法	実習・グループ発表形式						
テキスト及 び参考書等	テキスト1) 細田多穂監修：「理学療法評価学テキスト」南江堂、2009 参考書1) 千田富義編：「リハ実践テクニック脳卒中」改訂第2版、メジカルビュー社、2013						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				70	
小テスト等							
宿題・授業外レポート		○				10	
授業態度			○			5	
受講者の発表			○			5	
授業への参加度			○			5	
その他	資料を作成して分かりやすく発表して理解を深める					○	5
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
<b>授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）</b>							
第1週	成人神経系疾患理学療法の評価オリエンテーション・グループ分け						
第2週	片麻痺患者の理学療法評価（問診・情報収集・MMT・ROM）						
第3週	片麻痺患者の理学療法評価（DTR,M-TONE,BR-STAGE）						
第4週	片麻痺患者の理学療法評価（SENSORY,協調性検査）						
第5週	片麻痺患者の理学療法評価（姿勢・動作分析）						
第6週	片麻痺患者の理学療法評価（歩行分析）						
第7週	片麻痺患者の理学療法評価（NEUROLOGY,ADL 動作・基本動作）						
第8週	片麻痺患者の理学療法評価（片麻痺患者総合評価）						
第9週	片麻痺患者の理学療法評価（問題点抽出・ニード・デマンド・目標設定・治療プログラム）						
第10週	片麻痺患者の理学療法評価（問題点抽出・ニード・デマンド・目標設定・治療プログラム）						
第11週	片麻痺患者の理学療法評価（統合と解釈）						
第12週	片麻痺患者の理学療法評価（統合と解釈）						
第13週	片麻痺患者の理学療法評価（治療プログラム実施）						
第14週	片麻痺患者の理学療法評価（治療プログラム実施）						
第15週	片麻痺患者の理学療法評価（OSCE）						
第16週	試験・授業のまとめ						
備考	＊評価実技に関するグループ発表が中心になります ＊デモンストレーションのあと個別のグループで体験を通して評価実技を学習する ＊授業の内容は変更することがあります ＊＊授業に先立ちあらかじめ授業外学習（予習・復習）を必ず自宅ですてから授業に臨むこと						